Japan Society of Obstetrics and Gynecology

B. 問診と診療

1. 産婦人科の問診方法および医療面接

How to Take Medical History of the Patient with Gynecologic and Obstetric Complaints

1）問診（医療面接）

医療面接という言葉がよく使われるようになった．今までの問診と何が違うのか．問診とは医師側から質問することがメインであり，医療者中心の医師―患者関係を想定するものであった．近年，患者中心の医師―患者関係が求められるようになり，問いただすのではなく，対面して会話を行うということで，面接という言葉が用いられるようになった．

医療面接の意義は，診断の手がかりを得るための情報収集のみならず，そこで行われた会話を通して良好な医師―患者間のコミュニケーションを築く出発点となる．まず，会話をすることが大切という考え方である．

そのためには，質問するときだけでなく，聴くときにも患者さんと適切なアイコンタクトを保ち，うなずきやあいづちを適切に使って積極的な傾聴を心がけるなど，人間としてのコミュニケーションスキルの習得が必要となる．電子カルテの導入が進み，コンピュータばかりみていて，ちっとも患者側を向かないような状況では，患者の不安に配慮するどころか，こちらの話をちっとも聞いてくれない．親身でないなど不満を持たれる場合すらあることは想像に難くない．

具体的には，導入部分で言えば，明確な発音で呼び入れることを心がけ，「次の方どうぞ」など，あいまいな表現は避ける．同じ目の高さで患者さんに対して挨拶をし，自己紹介をする．患者確認のため，患者さんの名前をフルネームで確認する．患者さんに名乗ってもらう場合は，確認のためにという目的を告げる．また，面接を行うことの了承を得る．症状が強い場合は面接が可能かどうか患者さん自身に確認し，可能な場合でも楽な姿勢で面接が行えるように配慮する．などである．ときには諸先輩方を参考にしつつ，ときには反面教師にして，自分がもしこの患者の立場だったらと，想像力を働かせて面接を行うことが必要である．

医療者の態度や言葉遣いも大切だが，信頼を得るためには，その患者にとって最も適切な対応を選択することも重要であろう．

初めて産婦人科を受診する女性はもちろんのこと，妊娠分娩の既往があって産婦人科受診歴がある場合でも，大部分の患者は不安がいっぱいの状態で産婦人科を訪れる．医療面接は，患者の状況を把握する第一歩であると同時に，すでに治療の第一歩である．清潔で明るい笑顔，患者の目線を理解したうえでの的確な対応，守秘義務の徹底，安心感を与える態度などが，患者に信頼感を与え，その後の診断・治療に対する患者と医療者とのより良いコミュニケーションを築くのである．

2）質の高い診療の基本となる問診・病歴の取り方

診療の合理的な継続，チーム医療の円滑な遂行，診療情報の開示と透明性などの信頼性のある質の高い医療の基盤として，近年とみに診療録の重要性が注目され，わかりやすく

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

信頼性のある診療録作成のために，POMR(problem-oriented medical records)，SOAP(subjective，objective，assessment，plan)など標準的記載様式が推奨されている．わかりやすく信頼性のある診療録を作成することは，科学的思考のプロセスによって診療そのもののやり方や考え方を学ぶこととなるが，その基本はまずは系統的そして重点的な問診・病歴の取り方であろう．

診断・治療という診療のプロセスのまず第一歩である問診・病歴の取り方がスムーズにそして的確に行われなければ，決して質の高い診療には繋がらない．患者と医師の間のコミュニケーションの出発点である問診(医療面接)は，患者からの情報収集の内容を左右するばかりか，その後の検査や治療に対する患者の理解と協力を得るための必要不可欠な第一歩である．

「いかがされましたか」を英語では「What can I do for you？」とも表現するように，人間としてのコミュニケーションスキルを磨き，常に患者サイドの心理や心の機微，プライバシーに配慮して，誠実でやさしい態度や会話で，患者の不安を取り除くように配慮しながら，医療従事者としてのプロ意識を持って，患者の訴えをよく聴き，必要と考える事柄を確認したり尋ねたりしながら医療面接を行っていく．特に産婦人科を受診することをためらう女性は多く，患者の不安と緊張を理解したうえで医療面接にあたらなければ，その後の診察にも支障をきたす場合がある．また，産婦人科を受診する患者の症状によっては羞恥心からうまく言葉で表現できないことも多いので，待ち時間にあらかじめ外来問診票を記載してもらい，その内容を確認しながら医療面接を進めていくことは有用である．近年増加している諸外国出身の女性患者には，あらかじめ英文等の問診票を作成しておいて活用すると円滑に医療面接が行える．

3）産婦人科における問診・病歴の取り方

女性の健康は女性ホルモンの分泌と密接に関係し，月経のある女性の身体が1カ月のうちにまるで月の満ち欠けのように周期的に変動するだけではなく，女性の一生それ自体が幼児期から思春期，性成熟期，更年期そして老年期というダイナミックなホルモン分泌の変動に伴って形成され，それぞれのライフステージに応じた疾患がある．それぞれのライフステージでの女性特有の生理機能，形態的ならびに精神的特徴を踏まえていくことが産婦人科における問診・病歴の取り方での重要な点である．

(1) 主訴および現病歴

主訴(chief complaints)とは，患者が医療機関を訪れようとした直接の理由で，一般には患者の愁訴(自覚症状；symptoms)や身体所見(他覚症状；signs)が主訴になる．

現病歴(history of present illness)は，患者の主訴が，いつ，どのようにして始まり，現在はどのような状態なのかという，病気の発症と時間的経過である．主訴は1つだけとは限らないが，最も重要なものは何なのかをよく判断し，現病歴を詳しく聞きながら，科学的思考プロセスを組み立てていき，必要な内容を補足，確認していく．婦人科受診の主訴で頻度が高い不正出血などの場合，以下に述べる月経歴の問診のごとく，患者自身が月経なのか不正出血なのか解らなかったり，反対に思い込んでいたりする場合や，性器出血なのかそれとも肛門や泌尿器系からの出血なのか患者本人では判断できていない場合も多い．産婦人科医師は，患者の訴えから適切な疾患を思い浮かべながら医療面接を行っていくが，患者の思い違いや表現の不備も十分に念頭において，系統的な問診を心がけるべきであろう．

また，思春期女子を対象とした場合，本人からのみでは十分に聴取されない場合も多く，家族より生活環境から生後の発育状況に至るまで詳しく聞くことが大切である．しかし，家族からの間接的情報は必ずしも客観的なものではなく，かなり修飾されたものであるこ

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

とを考慮にいれなくてはならない．年長の女子で自分から婦人科的症状などを説明できても，本人の言葉をさえぎって母親のみが話す場合もある．特に妊娠や性感染症(STD；Sexually transmitted disease)との関連性が考えられるような例では，家族同伴ではなく本人のみから聴取することにより事実が明らかになる場合が多い．いずれにせよ思春期の女子は感受性も高くまた精神的にも不安定な時期であり，受診は患者および家族の不安を和らげ，症状のみならずその背景にある状況をも把握するよう心がけ丁寧な問診を行うことが特に重要であろう．

(2) 月経歴

月経に関する問診は産婦人科において大変に重要な項目であり，必ずかつ詳細に聴く必要がある．初経年齢，閉経年齢，最終月経，月経周期，持続期間，経血量(凝血の有無)，不正出血の有無，月経困難症状の有無は必須項目である．ここで気をつける点は，女性だから月経についての正しい知識をすべての人が持っているとは限らないという点である．

まず月経周期の正しい計算方法を知らない女性も実際は多い．月経は性周期を有する女性にとっては，体の大切なバロメーターでありながら，体のリズムを正しく把握していない女性も結構いることを医療サイドとしては，その意識の中にとめておくことが必要である．

事前の問診票で月経周期が21日型と記載している場合，頻発月経かと考えて確認してみると，月経終了後から出血のない期間だけ計算していることもままある．最終月経が1月27日でありその前が1月1日からなら26日型の正常月経周期であっても「月経不順で，月に2回月経があるが…」と表現してくる場合なども実際の日常診療ではよくみかけることである．場合によっては「月経周期とは，月経が始まった日から数えて，次の月経開始前日までの日数で計算し，正常月経周期は25～38日ですから，月経期間が5日間あれば出血のない21日間を合わせて21＋5＝26で，月経周期は26日型で正常です．」というように確認しながら問診を行い，女性自身の今後の意識の向上を促すのも産婦人科医の大切な役割であろう．

月経については，少なくとも2カ月前までさかのぼって確認し，その内容も「いつもの月経と比べて，持続期間，量や色，痛みの状態などが異なっていなかったか」などを聴取することは極めて重要である．

また，45～55歳の更年期時期の女性では，月経なのか，閉経後の不正出血なのかなど自分自身では判断できないことがままあるので注意深く上手に聞き出すことが必要である．

(3) 結婚・妊娠および分娩歴について

結婚年齢，離婚，再婚歴，性経験の有無，妊娠・分娩歴，人工流産歴などの問診は，産婦人科にとっては，他科以上に疾患の想定や内診などの産婦人科的診察方法の選択のために重要な項目である．性成熟期にある女性で性経験があれば，妊娠の可能性や妊娠に関わる疾患，STDなどを常に意識して医療面接や診察を行うこととなる．

また，産婦人科診療にとっては，ごく日常的に行われる内診ではあるが，その前に十分なインフォームド・コンセントが必要であり，内診は患者の同意なしに行ってはならない．

月経不順などの主訴で来院した思春期や性交経験のない女性の場合は，性急に診察をスタートさせることなく，問診で十分にコミュニケーションをとって後，腹部エコーや内診・直腸診が必要であれば，どうしてそれらの診察や検査が必要なのかを納得してもらった後に行うべきである．問診での良好なコミュニケーションがないままに内診を受けさせられ，その時の経験がトラウマとなって，その後重大な問題点が新たに発生しても産婦人科受診をためらい受診の時期を遅らせてしまうケースもある．反対に，問診からスタートした患者と医師のコミュニケーションがうまくいけば，的確な診断・加療が行われ，その結果，

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

Pre-consultation Interview Sheet
Obstetrics/Gynecology

(1) Name: _____

Address: _____

Age: _____ Height: _____cm Weight: _____kg

(2) What is your problem?

1. Stomachache (Cramps)
2. I was told I have hysteromyoma (uterine fibroids).
3. I want to have an advice about contraception.
4. Vaginal bleeding
5. Vaginal itching or pain (Please circle either.)
6. Menopausal symptoms (insomnia, stiff shoulders, hot flashes, nervousness, vaginal dryness)
7. Cancer checkup
8. To know if I am pregnant or not.
   In case of pregnancy, I wish to deliver / have abortion. (Please circle either.)
9. Pain on my lower back
10. I was told my ovary is swollen.
11. Irregular menstruation
12. Vaginal discharge
13. Infertility
14. Regular postoperative checkup
15. I want to have a reference letter to deliver in my home country.
16. Other _____

(3) Regarding your menstruation:

1. How old were you when you had your first period? _____
2. Those who have had menopause:
   How old were you when you had your last period? _____
3. Most recent menstruation started on _____(yy)_____(mm)_____(dd) and lasted for_____days.
   Previous menstruation started on _____(yy)_____(mm)_____(dd) and lasted for_____days.
4. Menstrual cycle (From the first day until the first day of the next period)
   Approximately_____days in average
   When long:_____days. When short:_____days.
5. How long does it last? For _____days
6. Menstrual blood loss: Little / Ordinary / Much (with blood clots)
7. Do you have any difficulties at menstruation (cramps, etc.)? Yes No

(4) Have you ever had sexual intercourse? Yes No

(5) Are you married? Yes → since when I was_____years old. No
Divorced → When? _____(yy)_____(mm)

(6) How many times have you been pregnant? _____
Among them, how many times have you delivered, miscarried or had abortions?
Delivery_____ Miscarriage_____ Abortion _____

Please leave this paper in the basket on the table and wait until your name is called.
Thank you.

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

産婦人科問診票

これは私どもが皆さまの診療をより良いものにするために大変参考になります。診療時には主治医が再度詳しくお話を伺いますが，待ち時間などをご利用になって，ご自分で大切と思われるところに，おわかりになる範囲でご記入くだされば ありがたく存じます。

お名前＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 年齢(満)＿＿歳 身長＿＿＿cm 体重＿＿＿kg

1）今日はどのようなことでおいでになりましたか。(あてはまる項目に○をつけて下さい)

1．おなかが痛い
2．子宮筋腫といわれた
3．避妊の相談
4．出血があった
5．陰部が(かゆい・痛い)
6．更年期障害(不眠・肩こり・のぼせ・いらいら)
7．癌検診
8．妊娠しているかどうか
＊妊娠の場合(分娩希望・中絶希望)
9．腰が痛い
10．卵巣がはれているといわれた
11．月経不順
12．おりものが多い
13．子供ができない
14．手術後の定期検診
15．里帰り出産
16．その他
(　　)

2）いつ頃からお気づきになりましたか。

(　　日前，　　月前，　　年前)

3）月経について

(1)初めての月経は＿＿＿＿歳
(2)月経周期 ― 月経が始まった日から次の月経が始まるまで
順調・ほぼ順調 (　　日間)
不順 (短い時　　日間，長い時　　日間)
(3)月経期間 ― 月経が始まった日から終わるまで (　　日間)
(4)月経の量は　多い・普通・少ない
(5)月経に伴って以下の症状がありますか　頭痛・下腹部痛・腰痛・その他(　　)
(6)最近の月経は　年　月　日より　日間
(7)その前の月経は　年　月　日より　日間
(8)閉経の年齢は　歳

4）結婚・妊娠について

(1)結婚していますか　はい (当時　歳)・いいえ
(2)離婚なさいましたか　はい (当時　歳)・いいえ
(3)セックスの経験はありますか　はい・いいえ
(4)妊娠されたことがありますか　はい・いいえ
①　歳 (中絶・流産・分娩)　ヶ月 (男・女　g)
②　歳 (中絶・流産・分娩)　ヶ月 (男・女　g)
③　歳 (中絶・流産・分娩)　ヶ月 (男・女　g)

裏面もご記入ください

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

5）他の病院で診てもらったことがありますか。　ある　ない

●「ある」の場合，その病院でどのような説明を受けましたか。

（　　病院　　科）

6）現在，何か薬を飲んでいらっしゃいますか。　いる　いない

●「いる」の場合，薬の名前がわかりますか。

7）これまでに薬などでアレルギー等の副作用を経験したことがありますか。　ある・ない

●「ある」の場合，どのような症状でしたか。

8）今までに大きな病気をしたことや，手術を受けたことがありますか。　ある　ない

●「ある」の場合，いつ頃どんな病気や手術でしたか。

9）ご家族やご親戚で，次のような病気にかかったことのある方がいらっしゃいますか。
それはどなたですか。

心臓病（　　）　糖尿病（　　）　高血圧（　　）　脳卒中（　　）
結　核（　　）　喘息・アレルギー（　　）　癌（　　）　その他（　　）

10）お酒を飲みますか。　はい・いいえ・やめた（　　年前）

●「はい」の場合……＊（　　）年前から飲んでいる
＊最近は，平均して一日（ビール・日本酒・ウイスキー）を
（　　）本・合・杯ほど飲んでいる。

11）煙草は吸いますか。　はい・いいえ・やめた（　　年前）

●「はい」の場合……＊（　　）年前から吸っている
＊最近は，平均して一日（　　）本吸っている。

医療法人鉄蕉会亀田クリニック　K 2002-157 14.12 10,000

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

（別表） 医療面接においてとくに重要な事項

1）最初に自己紹介をしたか.
2）最初に，これから何の話をするか説明したか.
3）医師らしい態度で説明したか.
4）アイコンタクトを保ちながら説明したか.
5）理解しやすいような言葉を選んで説明したか.
6）疾患についての説明と診断の告知は適切であったか.
7）検査データや病態の説明は適切であったか.
8）治療法の選択ならびに治療計画の説明は適切であったか.
9）患者に対する思いやりの態度が示されたか.
10）全体として必要かつ十分な説明であったか.
11）話の内容が良くわかるかどうか尋ねたか.
12）患者または家族の質問に対して適切に答えていたか.
13）患者および家族の意見を十分に聞く態度をとっていたか.
14）患者および家族の立場を尊重する態度をとっていたか.
15）説明した後に同意を求めるような配慮は十分であったか.

今回の主訴が解決した後も「女性のライフパートナーとしての産婦人科」として，婦人科検診などの必要性が女性患者に認識されることとなろう.

既往妊娠・分娩歴は，産婦人科の問診として，各年代の女性に必要であるが，特に性成熟期の女性の今回の妊娠・分娩が対象となる場合や不妊症の主訴の場合は，詳細に聴取する必要がある．正常妊娠・分娩であったのか，子宮外妊娠や流産の既往はどうか，帝王切開術や他の産科的処置が行われたのか，出生時の児の性別や体重，状態をも知っておく必要がある．また，ケースによっては，初診時の問診の際に夫や本人あるいは夫の親族がその妊娠・分娩既往歴に関してどこまで知っているかを確認しておく必要がある.

（4）既往歴とくに手術歴

既往歴(past history)は，出生してから現在まで，患者がどのような疾患に罹患したことがあるかの医療面接で，患者の健康状態の歴史である．主訴や考えられる疾患によっては，患者の出生時の状況や幼児期の健康状態まで確認が必要なこともある．一般的には過去に罹患したり現在加療中の疾患は詳細に聴取し，特に高血圧，糖尿病，心疾患，腎臓病，肝臓病などの慢性疾患では，いつ頃からどこの医療機関でどのような治療を受けているのか，薬物治療を受けている場合はその処方内容を確認する．特に手術歴は産婦人科以外の手術歴でも，いつ何の病気に対してどこの医療機関でどのような手術を受けたのかをできるだけ詳しく聴取する．乳癌などの悪性腫瘍疾患の既往などは，現在の状況や後療法の有無などにも特に注意する．アレルギーの有無，輸血や血液凝固因子製剤の投与の既往なども重要である．また，喫煙や飲酒の有無等の嗜好品の状況を聴取する．これらは，外来問診票の記載を活用して，系統的にすすめることが有用である.

（5）家族歴

家族歴(family history)は，家族や親族について，現存していればその健康状態，もしなんらかの疾患に罹患していればその病名，死亡している場合はその死因などを聴取し，特に家系内の高血圧，糖尿病，遺伝性疾患，肝炎ウィルス・キャリア，アレルギー性疾患，悪性腫瘍などに注意する．また，患者の年齢や疾患によっては，患者の今後の検査や治療の方針について医療サイドとのキーパーソンを確認しておくことも必要であろう.

最後に

医療面接においてとくに重要な事項を別表に示す．医療面接の自己研鑽ならびに指導に

NII-Electronic Library Service

Japan Society of Obstetrics and Gynecology

お役立ていただければ幸いである.

《参考文献》

1. 酒巻哲夫, 安部好文編. 診療録の記載の仕方とプレゼンテーションのコツ. 基礎臨床技能シリーズ2. 東京：メディカルビュー社, 2004；46—58
2. 橋本信也. 外来患者の問診から診断まで. 産婦人科治療 2000；80：1—7
3. 舘野政也. 産婦人科外来患者診療時の心得. 産婦人科治療 2000；80：13—15

〈清水 幸子*〉

*Yukiko SHIMIZU
*Department of Obstetrics and Gynecology, Kameda Medical Center, Chiba

Key words: Chief complaints・History of present illness・Past history・Family history・Problem-oriented Medical Records (POMR)

NII-Electronic Library Service